

平成 30 年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（木材加工研究室）

試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	30-事後-1						
課題名	リンドウの連作障害を回避する木質栽培床の開発						
課題の概要	本県の特産として県北部で取り組まれているリンドウ栽培は、連作による生育障害が発生するため、継続して同一圃場で栽培できない。そのため、促成栽培、半促成栽培ではハウスを移動する必要がある。また、露地栽培では、管理しやすい適当な圃場は限られており、生産者からは同一圃場で栽培できる技術開発が望まれている。そこで、リンドウの連作障害を回避するために、樹皮等木質バイオマスを利用した木質栽培床の開発を行った。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	2 人	3 人	1 人	人	人	4. 2
	有効性（効果）	1 人	4 人	1 人	人	人	4. 0
	有効性（目的以外の成果）	1 人	3 人	2 人	人	人	3. 8
	効率性・妥当性（費用対効果）	2 人	1 人	3 人	人	人	3. 8
	効率性・妥当性（計画）	人	4 人	2 人	人	人	3. 7
	成果の活用・発展性	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
	総合評価	1 人	5 人	人	人	人	4. 2
助言・指摘事項等	<ol style="list-style-type: none"> 限られた人員・予算の中で所期の目的は十分達成された。連作が難しい他の農作物への活用も期待できる。 他の農業用植物に応用できれば面白くなる。 興味深い。最適な製造条件を思いつくと極めて有意義と思う。 木質栽培床の特徴から他の多年草・宿根の園芸切り花への有効性を広げ、より低価格の実用化を目指してください。 廃樹皮の栽培床への利用という研究に取り組み、総じて有用な成果が得られたと思われる。今後は、さらなる低コスト化や他植物・作物への適用などの検討に加えて、リンドウ品質や成長速度などに効果的な樹皮栽培床の開発、使用後の樹皮栽培床の堆肥化などについても、継続的な研究を期待する。 						

平成 30 年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（木材加工研究室）

試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	30-事前-1						
課題名	岡山県産材による熱圧処理技術の開発						
課題の概要	ヒノキ、スギは、材質が軟らかく表面が傷つきやすいという欠点がある。さらに一般住宅では、施主の洋風志向や住宅様式によっては色調がニーズに合わない場合が見受けられる。したがって、今後、県産材の更なる需要拡大を図るためには、材面の高硬度化や材色の調整は重要であり、これらの課題を解決するための熱処理と圧密化を同時に行う熱圧処理技術を確立する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
	有効性	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
	効率性・妥当性	2 人	3 人	1 人	人	人	4. 2
	総合評価	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
助言・指摘事項等	<ol style="list-style-type: none"> 1 無垢内装材向けに県産材の利用が期待できるだけでなくテーブルの天板や家具向け、デッキなど外部での利用も可能になればと思う。 2 建材と違った無垢材の良さがもっと引き出せればと思う。 3 公的機関が取り組むべき重要な課題と思う。 4 林齢や心材・辺材・板目・柾目など木材部位を処理条件に加えてはどうか。 5 本課題に関しての十分な知識を備え、それに基づいた計画が立てられており、来年度から実施するにふさわしい課題計画であると評価する。さらに、このような課題は旬を逃すと後追いになる可能性もあるため、他所での類似研究の成果によって先を越されることがないように早期に研究着手するとともに、研究過程において成果が得られる度に実証的な研究を企業等との連携の下で迅速に開始することが望ましいと思われる。 						

平成 30 年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（木材加工研究室）

試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	30-事前-2						
課題名	香りを評価指標とするヒノキ材人工乾燥条件の検討						
課題の概要	岡山県の主要造林木であるヒノキは、特有の香りが製品価値として国内外で認知されているが、この香りは主にテルペン類を中心とした揮発性抽出成分に起因するものであり、主に木材の乾燥工程で失われ、あるいは変質しやすい。したがって、ヒノキ本来の香りをより良く残す技術が付加価値向上のために必要であり、他製品との差別化による需要拡大へ繋がる。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	3 人	3 人	人	人	人	4. 5
	有効性	3 人	3 人	人	人	人	4. 5
	効率性・妥当性	1 人	4 人	1 人	人	人	4. 0
	総合評価	2 人	4 人	人	人	人	4. 3
助言・指摘事項等	<p>1 ヒノキの香りを好むニーズは高いと思われ「見える化」出来れば県産ヒノキと他地区の桧の差別化が図れる。委員会でも発言があったが、香りの継続性も大切な要素である。</p> <p>2 出来れば香りの持続がどこまで続くのか研究をお願いする。</p> <p>3 期間内での具体性にやや乏しいと感じた。</p> <p>4 香りと同様、人工乾燥により失われがちな桧独特のピンクの色合いや艶も検討できないか。</p> <p>5 本課題に関しての十分な知識を備え、それに基づいた計画が立てられているとともに、単なる分析値ではないある種感覚的な情報を数値化して提供するという成果が期待され、来年度から実施するにふさわしい課題計画であると評価する。可能であれば、関係機関等との連携充実や予算増額により、総合的な香りの評価および香りの制御について取り組むことを期待する。また、諸外国を県産材のターゲット国とするのであれば、具体的にどのような香りが好まれるか？といった嗜好についても、各々の国での市場調査も必要ではないかと思われる。さらに、香り成分の放散に伴って他の匂い成分や揮発性成分が吸着されるのか？などの検討も行うことでできれば、実際の生活空間における快適性へのアプローチにもなり、より有用な研究になると思われる。</p>						